

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871100255
法人名	有限会社 トゥモロー
事業所名	グループホーム 憩の郷
所在地	愛媛県松山市柳原720番地
自己評価作成日	平成28年9月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

『目配り・気配り・心配り』を運営理念に掲げ、利用者が不安のない楽しい毎日を過ごしていただけるよう支援しています。 近くには海岸があり、天気の良い日には徒歩や車椅子での散歩をしており、眺めが良く、ゆったりとした時間を過ごせます。 隣りの敷地の畑で野菜を作り、新鮮な野菜を食材に利用しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員は「笑いを大切にしたい」と考えており、職員はよく笑い、明るい雰囲気を作っていた。家族会時に家族欠席の利用者については、職員が隣りに座って、本人がさみしく感じないように配慮をしている。毎年一回、地元の寿司屋が来て、握りずしを楽しむ日があり、利用者それぞれが好きなネタを注文している。 利用者と一緒に2日に1回、食材の買い出しに行っている。食事ができる匂いで居室から居間に出て来られる方がいる。又、重度の方には、少し前からテーブル席で過ごせるようにして食事を待ち遠しく思えるよう支援している。昼食前には、職員が声をかけて、みなで口腔体操を行っていた。 秋祭りには、神輿が来ており、接待等を利用者と一緒に行っている。近くの老健施設の夏祭り等に出かけている。地元の方が、介護相談に来られることがあり、地域包括支援センターにつなげる等して、事業所が橋渡し役になっている。隣接する墓地に地域の方や利用者の知人がお参りに来る際には立ち寄ってくれる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 憩の郷

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏名 山内 栄樹

評価完了日 平成28年 9月 5日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 「目配り 気配り 心配り」の理念を掲げ「明るい雰囲気作り・ 優しい言葉づかいや態度・相手の気持ちを思い量る・手は 出しすぎず目は離さず・介護援助の研鑽」の五ヶ条を具体的 方針としています。地域密着型サービスの意義とはあまり関 係無いかもしれませんが、各フロアに掲示し、常に頭に置き 共有実践できるように努力しています。 (外部評価) 職員が理念を確認しやすいように掲示場所を変更した。又、 ミーティング時にみなで理念に基づき、ケアの確認を行い実 践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域の自治会に入り、利用者が自治会行事に直接係ること はありませんが散歩時などは地域の方と声を掛け合っていま す。日常的に交流するのは難しい状態ですが、近くの夏祭り に出掛けたり、地区の秋祭りでは神輿2台に来ていただきお 接待をしたり、歌や踊りのボランティアに来ていただいたりし ています。 (外部評価) 秋祭りには、神輿が来ており、接待等を利用者と一緒に行っ ている。近くの老健施設の夏祭り等に出かけている。地元 の方が、介護相談に来られることがあり、地域包括支援セン ターにつなげる等して、事業所が橋渡し役になっている。隣 接する墓地に地域の方や利用者の知人がお参りに来る際 には立ち寄ってくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 以前、地域密着サービス事業者と協力しながら「徘徊マニ ュアル」を作成し、地区の事業所に配布しました。運営推進 会議に出席される地区代表や民生委員の方々々に支援をして いただけるよう声掛けをしたり、地域の学生の体験学習を通 して認知症の人の理解、現状把握や支援の方法などを学んで いただいています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議は二カ月に一度開催し、市職員や地域包括支援センター職員、民生委員、地域代表者、家族代表者、各階職員が出席し利用者の状況や行事報告等行い、意見を聞いています。参加した職員が各階に報告し情報の共有に努め、サービス向上に活かせるよう努力しています。</p> <p>(外部評価) 会議は事務所で行っているが、3月には居間で会議を行い、事業所の構造や設備を見学してもらった。又、茶話会を行ない利用者と交流する時間を作った。参加者からは、「事業者の様子がわかった」と感想があったり、感染症対策についての質問があったりした。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には市職員・市社協・地域包括支援センター職員に来ていただき報告しています。地域包括支援センター主催で毎月行われるサービス調整会にも出席し、協力関係を築いています。相談等のある場合は、市職員へ直接電話して聞くようにしています。</p> <p>(外部評価) 市の担当者から、地域の気になる高齢者の対応について協力依頼があり、ケアマネジャー等が協力をしている。地域の中学生の体験学習、日舞、沖縄舞踊のボランティアを受け入れている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関は入出時にチャイムが鳴るようにし、夜間以外は施錠していません。以前は車椅子の利用者で歩けないのに立とうとされる方に職員が手薄な時間、身体拘束をしていた時期もありましたが、拘束をしないケアを話し合い、現在はしていません。夜間は居室で一人になるのでベッド柵はどうしてもその人の安全を考えるとせざるを得ない時もありますが、拘束をしない考えは優先しています。</p> <p>(外部評価) 前回の外部評価を受け、職員全体で身体拘束について勉強を行ない、現状について検討し、全職員で「拘束しない」ことを申し合わせている。ひとりで出かける利用者には、職員が付き添い、本人が納得いくように支援している。又、落ち着かないような様子が見られる時には、声かけしたり、見守りを強化して支援している。転倒の危険がある利用者の居室のドアには、チャイムを付けていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティング時や他の施設での虐待の報道があった時などの折々に管理者からの指導や学ぶ機会を持ち、利用者の状況や職員の対応について話し合いをしています。利用者の身体に異常があった場合や言葉での暴力と思われる場合は管理者へ報告し、原因を探るべく話し合いをするようにしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修時に成年後見制度について習ったり、施設に本も備えてありますが、今のところ対応に迫られている利用者はいないので活用していません。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には重要事項説明書を見ながら一つ一つ説明し、疑問やわからないことがあれば説明し納得していただいています。後日分からないことがあればいつでも聞いてくださいとお伝えしています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を置いています。利用者や家族からの要望がスタッフにあれば管理者へ伝えるようにしています。運営推進会議には家族にも出席していただき、年一回ではありますが敬老会で家族が集まられたとき家族会を開催し、家族の意見を聞く機会を設けています。 (外部評価) 毎月、家族には利用者の様子を記した手紙や写真を送っている。事業所で敬老会を行なう際には、前時間に家族会を開いており、ホーム長から「事業所への要望・意見を話して欲しい」と伝えている。家族会には7組20名の参加があり利用者・家族・職員でお弁当を食べながら交流も行った。日頃は来訪が少ないような家族の参加もあり、利用者は喜ばれたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングは代表者・管理者が参加し意見や要望を聞くようにしていますが、経営上意見を反映させることが出来ないこともあります。職員からの不満や苦情はふだんから言いやすい雰囲気になるよう心掛けています。	職員個々がレベルアップできるように、取り組み計画を立て実践して行ってほしい。取り組みの成果等も確認しながら事業所のさらなる質向上につなげて行ってほしい。
			(外部評価) 毎月1回、午前中にミーティングを行っており、夜勤者以外の職員が出席している。行事について話し合ったり、ケアプランの見直しを行ったりしている。ミーティング後には、ホーム長が職員の相談に乗っている。職員からの「もっと利用者の要望に添いたい」との意見がきっかけとなり、外出支援に取り組んだことがある。勤務年数の長い職員が多く、ケア技術は充実しているが、さらにケアの知識向上への取り組みを課題に挙げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 介護報酬が下げられた中、年二回の賞与・年一回のベースアップ・資格手当により職員がやりがいや向上心を持って働けるよう努めています。個々の相談には耳を傾け、できるかぎり職員の希望に沿った休日を組んだ勤務表を作成するようにしています。有給休暇がなかなか取れない環境なので、今後は考えていきたいと思っています。	
			(外部評価) 地域で行われる研修講座を職員に伝え、希望する研修の受講料は会社負担にて参加してもらっています。個別で職員の力量に合った研修を勧めたり、資格を取ることも積極的に勧めています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 地域密着型サービス協会が行う相互研修に職員が参加し交流しました。北条地区で行われているサービス調整会(地域包括支援センター主催)へ参加し、勉強会も管理者や職員が参加しています。	
			(外部評価) 地域密着型サービス協会が行う相互研修に職員が参加し交流しました。北条地区で行われているサービス調整会(地域包括支援センター主催)へ参加し、勉強会も管理者や職員が参加しています。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを開始する前は出来る限り本人とお会いし様子を伺うようにしていますが、本人と面談出来ないこともあり、その場合は入居後に信頼関係を築きながら要望を聞くようにしています。入居してすぐは不安や混乱を伴うので、本人の思いを受け止め傾聴する努力をしています。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前は家族と面談し、いままでの苦労や経緯をゆっくり聞くようにしています。家族の要望や今までのサービスでの情報などを聞き、入居された後も安心できるような関係づくりに努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族からの申し込みがあった時、希望や状態により、地域包括支援センターや他のサービス機関を紹介することもあります。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 声掛けし話をする中で、考えている事や思っていることを理解できたり教えてもらうことも多く、暮らしを共にする関係を築けている利用者もいますが、身体的または認知的な介護度の高い利用者はどうしても介護される一方になりがちになってしまっています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 協力的な家族はいろんな情報を共有し本人との絆を大切にされていますが、遠方の方や忙しくてあまり面会に来られない家族は共に本人を支えるという関係は難しいです。月に一度、本人の生活情報や体調等を近況報告で送るときに、面会に来ていただける様お願いしています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や知り合いの方が面会に来られたときは、ゆっくり話せるように居室に案内させていただき、また来ていただけるような雰囲気を作る努力をしています。希望されるかたは馴染みの理髪店などにお連れしています。 (外部評価) 男性利用者は、地域の理髪店を利用できるよう支援している。又、女性利用者は、地域の訪問美容師を利用しており、顔なじみの関係になっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中はリビングでレクリエーションをしたりテレビを見たり、孤立しないようスタッフが声掛けしています。仲の悪い利用者もいますが、個別に対応し、気分よく過ごしていただけるよう支援しています。会話が成立しない利用者同士の中に職員が入り、会話ができるよう支援しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された本人や家族と外出先で出会ったときは声を掛け話を聞くようにしています。他施設へ移られた方は、その施設の行事に仲の良かった利用者と一緒に参加し、談話したりしました。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプラン作成時には本人に聞ける場合は希望をお聞きしています。意向の把握に努めていますが、あまり意思表示されない利用者には職員の思いでこうだと決めてしまっている場合もあり、日々の生活の中での会話や様子から何かヒントがないか模索しています。	
			(外部評価) 入居時には、現状を「私の出来ること、出来ないことシート」にまとめている。日々の介護記録には、本人の様子や希望、家族の意見を記入している。勤務年数の長い職員が多く、利用者のことや家族の要望についてよく知っているが、本人の思いを見落とさないように、本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録に取り組んでほしい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 情報が少なくその人が見えてこない場合は、家族に話してもらえ範囲でひとつひとつ分からない部分を埋めています。本人と会話も持つことで少しずつ以前の生活を聞き出し、職員と情報を伝え合っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日報を読んだり、変化のあった時の様子は職員から直接詳しく情報を得たりしながら把握に努めています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族を交えてのカンファレンスはなかなか出来ませんが、訪問時に聞いた家族の意向などがあれば勘案しながら、職員が意見やアイデアを出し合い、現状に即した介護計画を作成するようにしています。しかし、ワンパターンになりがちで、もっと利用者のことを考えた介護計画を作成していければという思いもあります。	
			(外部評価) 介護計画は、利用者・家族の意見や要望を踏まえて利用者個々の担当職員が案をつくり、ミーティングで話し合いケアマネジャーが作成している。計画は、3ヶ月ごとに見直しを行っている。	さらに、利用者主体の支援をチームで実践できるように、介護計画作成一連について職員で勉強する機会を作ってはどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子や気づき・食事量・排泄等は個別記録に記入、身体変化や身体ケアについては看護記録に記入し、申し送りを行い情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしています。現在、不穏な状態が続いている利用者についての事が主になり、落ち着いた生活を送られている利用者の情報が薄くなりがちになっています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりに出来ているかといえば出来ていないこともありますが、出来るだけ柔軟に取り組むよう努めています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 海岸や近くの神社へ散歩したり、近くの店へ買い物にお連れしたりする場合、利用者さんが安全に楽しめるようホーム全体で取り組んでいます。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 協力医療機関をかかりつけ医とする場合は必ず家族や本人の同意を得ており、馴染みのかかりつけ医を希望する場合は今まで通り通えるよう支援しています。協力医療機関から月二回訪問診療をしていただいています。</p> <p>(外部評価) 入居間もない頃や体調変化時等には、医師・家族と話し合い、薬の整理や調整を行なえるよう支援している。旧北条市内のかかりつけ医で診てもらっている利用者の方には、事業所から付き添い受診できるよう支援している。状態によっては、週2回、訪問診療で診てもらう方もあり、夜間でも相談、対応してくれている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 気づいたことや情報を看護日誌や介護記録に記入し、看護職員に相談したり協力医療機関やかかりつけ医の看護師に相談し指示を出していただき対応しています。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入退院時は必ず付き添い、病院関係者への情報提供をしています。また、入院後は可能な限り訪問して本人を励ますと共に、病院の相談員、看護師との情報交換を行っています。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化した場合、重度化対応指針に沿って、家族・主治医・管理者で話し合う機会を設け、事業所で出来ること出来ないことを家族に説明した上で入院か看取りかを決めていただいています。看取りとなった場合は看取り対応指針により医師や看護師と連携しながら対応しています。夜間の急変時には代表者・管理者がすぐホームに来れる体制を整えています。</p> <p>(外部評価) 利用契約時には、「看取りの指針」に沿って事業所で出来ること、出来ないことを説明している。利用者の状態変化に応じて、家族が医師と話し合う機会を作っている。又、看取りを支援する際には、家族が休憩を取ったり、宿泊できるように準備しており、高齢の家族が多いことから、気持ちの変化に寄り添ったり助言して家族のサポートも行っている。協力医の協力を得て、看取りについての勉強会を行なっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署が近くにあり、利用者の急変や事故発生時に介護職がやれることは限られた初期対応だけなので、速やかに管理者へ連絡し救急隊員や医療機関に連絡するようにしています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成し、消防署の協力を得て避難訓練や避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を定期的に行っています。火災時には自動火災通報装置によりホーム近くの職員や隣のご家族にも緊急通報連絡が入るように協力をしていただいています。水害の危険があるときは2階に避難する場合もある事を職員に通達しました。 (外部評価) 3月は、夜間の火災を想定して避難訓練を行った。簡易担架の作り方を習ったり消火訓練等も行った。米を備蓄しており、水は打ち抜き井戸のため、断水時にも使用可能となっている。避難経路の物品を片付けて通りやすくした。	利用者の避難誘導の順番、地域の方が駆けつけた後の役割、備蓄の管理点検等、具体的な方法を示して取り組みをすすめてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入所前の生活情報の中からその人に合った声掛けや接し方をしプライバシーを損ねないよう気をつけています。良い関係が出来ている利用者には気が緩んでしまうこともあるので反省することもあります。利用者が自分の希望ばかり言われたり、他の利用者への過度の接触があった場合、言葉掛かがうまく出来ない時もあります。 (外部評価) 職員は「笑いを大切にしたい」と考えており、職員はよく笑い、明るい雰囲気を作っていた。家族会時に家族欠席の利用者については、職員が隣りに座って、本人がさみしく感じないように配慮をしている。毎年一回、地元の寿司屋が来て、握りずしを楽しむ日があり、利用者それぞれが好きなネタを注文している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 不穏な利用者に対応している職員を見て「大変じゃと思って、頼みたいことも頼めん」と利用者から言われることもあります。時間の空いたとき出来る限りゆっくり話を聞き、自己決定できるよう支援しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 希望を優先するようにはしていますが、集団生活の中でどうしても職員の都合を優先してしまうときもあります。オルガンを弾きたい利用者には準備して弾いてもらい、横になりたい利用者にはベッドへお連れして休んでいただき、時代劇の好きな利用者には番組が始まったら声掛けをする等、それぞれのペースや希望に沿うよう支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 髪を梳かしたり男性の髭剃りなど気をつけています。家族の協力があれば必要な物を用意していただけますが、できない方には職員が管理者に相談し購入したりしています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理や片付けの出来ない利用者が殆んどですが、皮むきやスジ取りなど出来る利用者に声掛けし手伝っていただくこともあります。季節の食材や旬の物を提供し、メニューに希望があれば取り入れ、職員と一緒に楽しく食事できるよう努めています。 (外部評価) 利用者と一緒に2日に1回、食材の買い出しに行っている。食事ができる匂いで居室から居間に出て来られる方がいる。又、重度の方には、少し前からテーブル席で過ごせるようにして食事を待ち遠しく思えるよう支援している。昼食前には、職員が声をかけて、みなで口腔体操を行っていた。食後は、順番に歯磨きできるように支援していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食職員と一緒に食事をし、一日の食事量を記入しています。水分量や好みなどを把握し、水分量の少ない方は声掛けをしたり好みの飲み物をお出してできるだけ飲んでいただけるよう支援しています。本人が希望されるときは夜間も飲んでいただいています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きを行い、出来ない人は職員が援助しています。異常があれば歯科受診したり往診もお願いしたりしています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>排泄記録を記入して一人ひとりのパターンを把握し、定期的 に声掛けや誘導をしています。尿意や便意が分かる人はで きるだけトイレでできるよう支援し、おむつ使用でも大便だけ はトイレで出来るようになった利用者もあり、要望があればす ぐトイレに座れるよう支援を行っています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の排泄パターンを把握し声掛けして、昼間は出来る だけトイレで排泄できるよう支援している。昼食後、利用者の 耳元で声かけてトイレに行くよう促している様子が見られ た。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の 工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防 に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>現在車椅子利用者が多く、運動量が少ないため便秘がちに なるので水分量には気をつけています。食事は野菜を多くし たり水分補給時に牛乳を飲んでいただいたりして工夫してい ますが、どうしても便秘される利用者には医師に相談して下 剤を処方していただき、排便の様子を見ながら頓服として薬 を服用していただいています。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を 決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援を している	<p>(自己評価)</p> <p>現状では一人ひとりの希望に沿うことは難しいのですが、声 掛けに拒否される方は時間をおいて再度声掛けをしたり、日 を変えたりして、その日の体調や気分に来るだけ合わせて 入浴していただけるよう支援しています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>週2回の入浴を基本にしているが、利用者の希望に応じて、 週4回程度入浴を支援しているケースもある。長風呂の習慣 がある方には、他利用者に気兼ねなく楽しめるように最後 に入ってもらっている。介助が必要な利用者には、一緒に歌を 歌ったり、世間話をしながら支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に 応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	<p>(自己評価)</p> <p>水分補給後やおやつ後に休息を取りたい人は自由に自 室で休んでいただいています。就寝前は興奮されないよう気 をつけたり、室温や明るさなどを注意し、利用者の様子を見 て気持ちよく眠れるよう支援しています。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の残量等は担当職員が行い、バイタルチェック表や投薬内容表を作り、職員間で服薬の共有を行い症状の変化に注意しています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) リビングでテレビを見ている人から、レクリエーションや会話をしている人の声がうるさいと苦情を言われることもありやりにくい所もありますが支援はしています。歌ったりオルガンを弾いたり、料理の下ごしらえをしていただいたり、たばこを吸われる方は出来る範囲で吸っていただいたり、気分転換や楽しみ事ができるように支援しています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には庭に出たり近くを散歩したりしますが、遠くまで散歩するのは難しい状態になってきています。一人ひとりの希望に沿っての外出は難しいのですが、全員で近くの公園でお花見をしながら食事をしたり、車で遠出をしての外食や買い物ができるよう支援しています。 (外部評価) 公園や海岸の遊歩道に散歩に出かけている。年2回、事業所全体で計画して回転寿司やバイキング形式のランチに出かけられるよう支援している。普段は、利用者からのその日の希望に沿って、少人数で花を見に出かけたり、道の駅や物産市等に出かけたりしている。事業所の前のスペースに、テーブル・椅子を出してお茶を楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を理解できる利用者は現金を所持し欲しいものを買ったり職員に買ってきてもらったりしていますが、お金を理解できない利用者は事務所で預かっています。買い物に行くときは事務所より本人のお金をそれぞれ用意し、欲しいものを買って本人自身が支払えるように支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) したい人には対応するようにしていますが、希望する方がほとんどいません。短い文などを書かれたときは、こんなこと書かれましたよと家族に見ていただいたりしています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入り口や展示スペースに月ごとの行事(正月・節分・七夕等)や季節感のわかる飾り付けをしています。夏はエアコン冬は床暖房で温度調節をし、夏はすだれを吊るして暑さと光を和らげ、居心地良く過ごせるよう配慮しています。トイレは窓が無く換気扇だけでは匂いが残ることがあるので消臭スプレーを使用し不快にならないよう気をつけています。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時には、三方を網戸にして風通し良くしていた。南側にテレビを設置し、ソファでは仲良しの利用者がおしゃべりしながらテレビを見ていた。又、みなで輪投げゲーム等で遊んだり、洗濯物をたたんだりしている。「今日の予定」を書くボードが吊るしてあり、職員がボードを指して、「今日は、〇〇さんの誕生日ね」と伝えていた。壁には、利用者の写真を飾っており、家族から「普段の様子が良く分かる」と好評のようだ。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 自由に移動していただいています。テーブル席で歌ったり話したり、いつも同じ場所へ座っていたり、それぞれの居場所ができています。気の合った利用者同士で話ができるよう、座る場所にも気をつけています。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入居時に本人の使い慣れたものや好みのものを持ちこんでいただくよう家族に伝えています。家族が持ってこられた品や写真を飾っている利用者もおり、居心地良く安心して過ごせるよう支援しています。</p> <p>(外部評価) 仏壇を持ち込み、毎日手を合わせる利用者がある。家族の写真を飾ったり、自宅から人形や犬のぬいぐるみを持参している方は、頭をなでたり、しゃべりかけたりして大事にしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) ソファを最小限にし、リビングを広く保つことで車椅子の利用者が自由に動けるように工夫しています。トイレや浴室はわかりやすいように表示し、自分の部屋が分かりにくい利用者にはドアに名前を書いたりしています。</p>	